

不登校児童生徒の学習支援と フリースクールとの連携事業

報告書

令和6年3月31日

NPO 法人千葉こども家庭支援センター

はじめに

この委託事業は、フリースクール等における不登校児童生徒の学習支援について、インターネットを活用した学習支援や、実技や体験活動による多角的な観点の学習支援、社会的自立に向けた進路学習の支援を行うとともに学校・保護者との連携について、学校及び保護者との望ましい連携を実現することをねらいとしている。フリースクールペガサスでは、今年度この事業の委託を受けて上記のねらいを達成できるように2名の教員経験者と1名の公認心理師、5名の学生ボランティアで取り組んできた。

学習支援の成果を表す尺度は様々あると思うが、当フリースクールの方針でもある「義務教育段階で必要とされる学習内容を学校で使っている教科書に沿って指導する」という考え方のもとで、今は学校へは行けていないが、もし学校へ行こうとしたときに学習面での遅れが少しでもないようにしたいや中学校を卒業後は高等学校へ進学したいという希望を持っている子どもたちの願いがどれだけ叶ったかを一つの尺度として考えてみると、今年度は千葉市の子ども達だけに限って見ても4人の子どもが学校へ復帰でき、6人の子どもが学校とフリースクールを併用しながら通うことができるようになった。また、中学3年生は4人いたが全員が高等学校（県立全日制高校1人、私立全日制高校2人、通信制高校1人）へ進学することができた。

さらに、入会前の面談を含め保護者との面談や相談も希望する保護者と多くおこなうことができ、日ごろ心配に思っていることへ一緒に向き合うことで保護者も安心して教室に通わせることができたと考えている。

以下この1年間に行ってきた支援や連携について具体的に報告する。

フリースクールは公教育と違いその設置基準が定められているわけではないので、運営者自らが安全で安心して通うことのできる教室環境を提供することに注意を払う必要があると考えている。

当フリースクールでは教室への通学や教室内でのけがや備品等の破損などに備え全員が入会時より保険に加入している。また、教室の入室、退室は保護者のもとにリアルタイムでメールで送られるように入退管理システムを導入するなど、安全や安心面での配慮を行っている。

さらに子どもたちの健康管理については、学校と同様に健康観察を実施している。

○ 教室環境の整備

子どもたちが教室に来る前にできる予防策として、教室の机、エレベータのボタン、入り口のドアノブ、トイレなどは毎朝アルコールで消毒した。また、放課後はパソコンのキーボードや使用した机やいすのアルコール消毒を行った。教室の窓は2方向または3方向を開口して空気の流れを作るような環境となるよう注意した。

学校の教室と比べ狭いため、学習用の机はレイアウトの自由度が高いカフェテーブルを使ったり、室内の空気を少しでも清潔に保つために加湿機能の付いた空気清浄機を設置した。さらには、コロナについては第5類の感染症になったもののいまだに発症事例が多く報告されていることから、席と席との間は十分な距離をとるように心がけ、さらには、向かい合いの机と机の間には高めのパーテーションを設けるなどを行った。

○ 子どもたちの健康管理

子どもたちは教室に来る前に自宅で検温や体調の観察をして、昨年度同様に「健康観察チェック」用紙に記録して毎日提出することにした。また、もし検温を忘れた子どもがいた場合は、非接触型体温計を使って検温し体温の確認をした。

入室の際には、全員薬用のハンドウォッシュで手洗いをしてペーパータオルで手をふいて席に着くという一連の流れを定着させている。

健康観察チェックシート（月別）

氏名	17C	18C	19C	20C	21C	22C	23C	24C	25C	26C	27C	28C	29C	30C	31C	32C
健康観察	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発熱																
咳																
頭痛																
嘔吐																
下痢																
その他																
健康観察実施																
健康観察実施																
健康観察実施																

※発熱がある場合や1つでも項目に○がある場合はペーパータオルの消毒は行わないでください。

1. インターネットを活用した学習について

(1) 指導計画の活用について

文部科学省の学習指導要領には子どもたちの発達段階に応じた標準的な学習内容が示されており、その内容に沿って各学校では指導計画を立て学習指導をしている。千葉市には小中学校とも指導計画が示されており、千葉市の小中学校に通う子どもたちは基本的にはその指導計画に沿って学習を進めている。しかし、フリースクールの場合は、学校へ通えなかった期間が個々に違うため一律に学習を進めていくことは無理である。そこで、一つの指標として指導計画に対応した学習計画は作るが、どこから始めるかやどこまで進むかについては個々の学習状況に応じて個別に組み立てていくことにした。

科目	単元	単元名	単元説明	ページ
国語	1	1-1	【ポイント】 朝の挨拶	1
国語	1	1-2	【ポイント】 朝の挨拶	2
国語	1	1-3	【ポイント】 朝の挨拶	3
国語	1	1-4	【ポイント】 朝の挨拶	4
国語	1	1-5	【ポイント】 朝の挨拶	5
国語	1	1-6	【ポイント】 朝の挨拶	6
国語	1	1-7	【ポイント】 朝の挨拶	7
国語	1	1-8	【ポイント】 朝の挨拶	8
国語	1	1-9	【ポイント】 朝の挨拶	9
国語	1	1-10	【ポイント】 朝の挨拶	10
国語	1	1-11	【ポイント】 朝の挨拶	11
国語	1	1-12	【ポイント】 朝の挨拶	12
国語	1	1-13	【ポイント】 朝の挨拶	13
国語	1	1-14	【ポイント】 朝の挨拶	14
国語	1	1-15	【ポイント】 朝の挨拶	15
国語	1	1-16	【ポイント】 朝の挨拶	16
国語	1	1-17	【ポイント】 朝の挨拶	17
国語	1	1-18	【ポイント】 朝の挨拶	18
国語	1	1-19	【ポイント】 朝の挨拶	19
国語	1	1-20	【ポイント】 朝の挨拶	20
国語	1	1-21	【ポイント】 朝の挨拶	21
国語	1	1-22	【ポイント】 朝の挨拶	22
国語	1	1-23	【ポイント】 朝の挨拶	23
国語	1	1-24	【ポイント】 朝の挨拶	24
国語	1	1-25	【ポイント】 朝の挨拶	25
国語	1	1-26	【ポイント】 朝の挨拶	26
国語	1	1-27	【ポイント】 朝の挨拶	27
国語	1	1-28	【ポイント】 朝の挨拶	28
国語	1	1-29	【ポイント】 朝の挨拶	29
国語	1	1-30	【ポイント】 朝の挨拶	30
国語	1	1-31	【ポイント】 朝の挨拶	31
国語	1	1-32	【ポイント】 朝の挨拶	32
国語	1	1-33	【ポイント】 朝の挨拶	33
国語	1	1-34	【ポイント】 朝の挨拶	34
国語	1	1-35	【ポイント】 朝の挨拶	35
国語	1	1-36	【ポイント】 朝の挨拶	36
国語	1	1-37	【ポイント】 朝の挨拶	37
国語	1	1-38	【ポイント】 朝の挨拶	38
国語	1	1-39	【ポイント】 朝の挨拶	39
国語	1	1-40	【ポイント】 朝の挨拶	40
国語	1	1-41	【ポイント】 朝の挨拶	41
国語	1	1-42	【ポイント】 朝の挨拶	42
国語	1	1-43	【ポイント】 朝の挨拶	43
国語	1	1-44	【ポイント】 朝の挨拶	44
国語	1	1-45	【ポイント】 朝の挨拶	45
国語	1	1-46	【ポイント】 朝の挨拶	46
国語	1	1-47	【ポイント】 朝の挨拶	47
国語	1	1-48	【ポイント】 朝の挨拶	48
国語	1	1-49	【ポイント】 朝の挨拶	49
国語	1	1-50	【ポイント】 朝の挨拶	50
国語	1	1-51	【ポイント】 朝の挨拶	51
国語	1	1-52	【ポイント】 朝の挨拶	52
国語	1	1-53	【ポイント】 朝の挨拶	53
国語	1	1-54	【ポイント】 朝の挨拶	54
国語	1	1-55	【ポイント】 朝の挨拶	55
国語	1	1-56	【ポイント】 朝の挨拶	56
国語	1	1-57	【ポイント】 朝の挨拶	57
国語	1	1-58	【ポイント】 朝の挨拶	58
国語	1	1-59	【ポイント】 朝の挨拶	59
国語	1	1-60	【ポイント】 朝の挨拶	60
国語	1	1-61	【ポイント】 朝の挨拶	61
国語	1	1-62	【ポイント】 朝の挨拶	62
国語	1	1-63	【ポイント】 朝の挨拶	63
国語	1	1-64	【ポイント】 朝の挨拶	64
国語	1	1-65	【ポイント】 朝の挨拶	65
国語	1	1-66	【ポイント】 朝の挨拶	66
国語	1	1-67	【ポイント】 朝の挨拶	67
国語	1	1-68	【ポイント】 朝の挨拶	68
国語	1	1-69	【ポイント】 朝の挨拶	69
国語	1	1-70	【ポイント】 朝の挨拶	70
国語	1	1-71	【ポイント】 朝の挨拶	71
国語	1	1-72	【ポイント】 朝の挨拶	72
国語	1	1-73	【ポイント】 朝の挨拶	73
国語	1	1-74	【ポイント】 朝の挨拶	74
国語	1	1-75	【ポイント】 朝の挨拶	75
国語	1	1-76	【ポイント】 朝の挨拶	76
国語	1	1-77	【ポイント】 朝の挨拶	77
国語	1	1-78	【ポイント】 朝の挨拶	78
国語	1	1-79	【ポイント】 朝の挨拶	79
国語	1	1-80	【ポイント】 朝の挨拶	80
国語	1	1-81	【ポイント】 朝の挨拶	81
国語	1	1-82	【ポイント】 朝の挨拶	82
国語	1	1-83	【ポイント】 朝の挨拶	83
国語	1	1-84	【ポイント】 朝の挨拶	84
国語	1	1-85	【ポイント】 朝の挨拶	85
国語	1	1-86	【ポイント】 朝の挨拶	86
国語	1	1-87	【ポイント】 朝の挨拶	87
国語	1	1-88	【ポイント】 朝の挨拶	88
国語	1	1-89	【ポイント】 朝の挨拶	89
国語	1	1-90	【ポイント】 朝の挨拶	90
国語	1	1-91	【ポイント】 朝の挨拶	91
国語	1	1-92	【ポイント】 朝の挨拶	92
国語	1	1-93	【ポイント】 朝の挨拶	93
国語	1	1-94	【ポイント】 朝の挨拶	94
国語	1	1-95	【ポイント】 朝の挨拶	95
国語	1	1-96	【ポイント】 朝の挨拶	96
国語	1	1-97	【ポイント】 朝の挨拶	97
国語	1	1-98	【ポイント】 朝の挨拶	98
国語	1	1-99	【ポイント】 朝の挨拶	99
国語	1	1-100	【ポイント】 朝の挨拶	100

実際に使っている学習計画

(2) 使用した学習支援ソフト

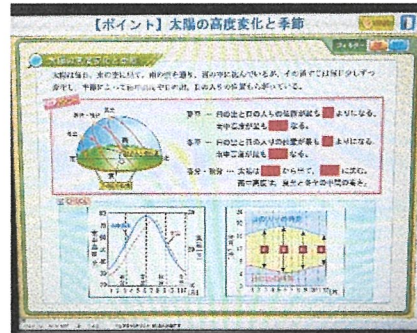
主教材として使用した学習ソフトはインターネットを活用した学習のための学習支援ソフト「天神」である。そして、補助材として学習内容を要約した「ランドセル」「デジタルスタディ」「英検〇級」「漢検〇級」などを使用した。

◎インターネット接続型ソフト

「天神」－株式会社タオー

このソフトの大きな特徴は以下の通りである。

- ① すべての教科書に準拠しており、特に著作権のため引用の少ない国語でもほとんどの内容を扱っている。
- ② 教科書は市町村別に選択できるので、学年をさかのぼった場合に転校してきた子どもでもその年度に使用していた教科書に合わせて学習できる。
- ③ 小中学校を合わせて2,000本以上のビデオによる授業映像により学習内容の解説を見る「ビデオ学習」、問題と解説を重視した「単元学習」、教科書の目次ごともしくは複数の目次を組み合わせる「テスト学習」などの学習パターンを自由に選べ、個に応じた学習形態を選ぶことができる。
- ④ 学習のまとめりごとにまとめプリントが用意されており、付箋をめくるようにして内容を確認していくことができる。



天神の学習画面例

⑤ 学習を自動判定し子どもごとに最適な問題を出題する。不正解の場合はヒントを見ることもできる。

⑥ 不正解問題に対しては、正解するまで同じパターンの別問が出題される。しかし、正答率が悪い場合には、ソフトが判断して問題内容を簡単な内容に変更して出題される。

⑦ それぞれの子どもの評価を領域別、観点別に確認することができ、保護者面談の際に資料として



天神の学習歴確認画面例

子どもの学習歴を Excel 表にしてプリントすることができる。

(3) 学習支援ソフトの効果

指導計画の項で触れたが、フリースクールに通う子どもたちは学校を休んでいた期間が様々であることから、同じ学年の子どもであっても学習歴は個々違いがある。こうした子どもにとっては、パソコン学習は一人一人が自らのペースで進めることができ、個別の学習がしやすい。

そこで、学習の進め方の枠組みを決め、このパソコン教材の特性を生かして、子ども一人一人の進み具合を見ながら学習を進めることで、効果が上がったと言える。

学習の進め方は次のような枠組みにして進めた。

- ① 千葉市の指導計画に沿った学習時期が表記されている各教科の年間学習内容計画書を子どもに渡す。
- ② インターネット接続型ソフトの小単元のはじめにある5分から10分程度の映像授業を見て学習する。
- ③ 小単元のポイント整理の画面に移り、付箋をめくるようにして学習内容の確認をする。
- ④ 学習した内容を映像授業やまとめプリントを使ってノートにまとめる。
- ⑤ 小單元ごとに用意された問題を解く。間違えたところは、繰り返し解き、合格点を目指す。また、わからないところや問題を間違えて困っているところがある子どもには机間指導している学習支援者が理解ができるまで解説をする。
- ⑥ ここまでで1つの学習のまとめりとなる。進捗や理解の様子にもよるが、この繰り返しをして2つの小單元を目安に進める。
- ⑦ 他の教科についても同じようにして進める。1日の学習では2教科程度を目安に進める。また、1つの小單元を4ないし5教科進めている子どももいる。
- ⑧ 中学生は単元のまとめりが終わった後、学校で購入している「学習ワーク」を使って学習のまとめをする。また、小学生は学校から渡されたワークテストをする子どももいる。

概ねこのようにして、進め方を繰り返して行っていくことにより、学習のリズムができ、自ら進んで学習に取り組もうとする様子が見られるようになり、わからないところは質問するということもできるようになった。

また、繰り返し学習することで今までより学習への理解が深まり、学習する量も自然と増える傾向にあった。

2. 実技や体験活動を取り入れた学習について

実技については教材が豊富にあるわけではないので個別または少人数での活動にせざるを得ない。昨年度設置したパーテーションで区切った個室で学習支援者とマンツーマンでの実験や制作活動を行った。

① 理科実験

理科の学習は実際に器具を使って実験し、体験することに大きな意味を持っている。人との関わりが苦手な子どもたちではあるが、一人で実験をすることにしたので実験を指導する学習支援者と1対1で活動ができ、積極的に取り組むことができた。

○ 顕微鏡を使っての観察

子どもたちは実験観察の器具に触れる機会も少ない。小学生から中学生までの子どもたち一人一人に顕微鏡の部位の名称、レンズを入れ替えたり、プレパラートを観察したりした。プレパラートは市販のものではあるが、双子葉植物、単子葉植物の茎の横断面や縦断面、ムラサキツユクサの葉の表皮にある気孔、淡水にすむ微生物（ミジンコ、アオミドロ、ゾウリムシ、クンショウモなど）、マツの花粉などがあり、見たことのないミクロの世界を楽しんだ。



水溶液の液性を調べる実験

また、顕微鏡の使い方が分かったところで、2回目の観察としてホウ酸の結晶や食塩の結晶を実際に実験で作って観察した。

○ 上皿天びんを使っての計量

まずは、基本的な上皿てんびんの使い方を学習した。未知の重さを計るときと決められた重さを計り取るときとでは分銅を乗せる場所に違いがあることを学習した。上皿天びんの使い方が分かったところで、溶解度の実験を行うために決められた重さの食塩とホウ酸を正確に計り取ることに活用した。

○ 物質によって乗溶解度の違いの実験

上皿天びん、顕微鏡の2つの器具を使って実験できる代表的なものとして溶解度を調べる実験がある。学習した基本技能を活用しながら、楽しく実験することを考え、溶解度を調べる実験を行った。

② 学校教材の作成と実験

○ 図工の作品作り

担任の先生が届けてくださった図工の教材（テープカッター作り、1枚の板から切り取る）を使い製作活動をした。近隣の学校に在籍している子どもは担任の先生がお見えになり、一緒に製作してくれた。子どもも楽しそうに作品作りに取り組んでおり、日頃触れ合うことが少ない自校の先生と楽しい時間が過ごせた。作品は写真に撮って学校への毎月の報告書に添付するとともに活動の様子を保護者にも伝えた。



図工作品作り

○ 技術科の作品づくり

技術科の時間に作るセンサーを使った電気回路の製作をした。はんだづけをするのは初めてなので、練習用の基盤を使ってはんだづけの練習をしてから、回路図を参考に電子部品を基板に並べ1つ1つ丁寧にはんだを付けていった。完成した作品は子ども自らが学校へ届けた。

③ 陶芸体験

市内で陶芸教室を開いている専門の先生に来ていただき、手ひねりによる茶碗やカップ、お皿などを一人1作品仕上げた。陶芸は土粘土を捏ねるという普段では体験できない手の感触があり、どの子も一生懸命に作品を仕上げている。普段は席と席との間を離して学習をしているのであまり会話のない子どもたちであるが、陶芸作品作りでは互いのを見合ったり、声を掛け合ったりして楽しそうに制作する姿が見られた。陶芸は一斉に行っても学年による説明などの差はあまりないので、異学年が一斉に体験するにはもってこいの教材である。



陶芸体験

④ プログラム体験

プログラミングは学校での学習の中にも取り入れられてきているのでパソコンでの学習の中にも取り上げられているが、そのほかに実際にプログラミングを体験し、自らが作ったプログラムでロボットを動かすという体験を行った。



プログラミング学習

千葉市科学館の協力をいただき、自動車型のロ

ロボットにタブレットを使いブロックを組み合わせてプログラム作り、その命令をを伝達し、決められた動きを再現する学習を行った。

ロボットについている4つのセンサーの仕組みを学習してから、様々な命令をどの順番にフローチャート上に入れていくのがよいか考える。動きの命令はいろいろあるがどれも単純で組み合わせの仕方によって動きも変わる。「タイヤ〇回転前進する」「右回りで〇度まがる」など、予め決めた命令を繰り返しタブレット上で組み立てて、その命令をロボットに伝達する。それぞれが思い描いたような動きに近づけるために何度も何度も試行錯誤しながら命令を何度も作り変えていた。動きは同じでも命令文が全く違うことがよくある。正解が1つではないので独自の方法を考える子どももいた。



プログラミング学習

また、中学生が小学生に教えている場面も見られ、体験活動を通してコミュニケーションも生まれていた。

3. 進路学習支援、自立支援について

今年度もペガサスに通った子どもの保護者を始め、見学に来たり、相談だけに訪れたりした保護者も合わせると数多くの相談があった。特にフリースクールに通って来る子どもたちは様々な思いを抱えている場合が多いので、公認心理師のような専門の心理職に相談できることが自立支援に大きな役割を果たしている。相談できる職員がいることが「安心」につながり希望を持って通えることにつながっている。

夏休み前後は、中学3年生や小学校6年生の保護者が進学についての相談に訪れることが多く、相談の内容は入学試験のことや学校選びのことなどが多かった。

また、年明けからは中学2年生の保護者が進路相談に訪れることがあった。さらに、日ごろ仕事をしていてなかなか学校やフリースクールに足を運べない保護者とはメールによる相談も行った。

進学関係では、全県で実施している模擬試験を希望者は受けられるようにしたり、その結果も踏まえ進路相談も実施した。また、進路に関する相談は在籍校との進路面談を踏まえて行うようにしており、学校との齟齬がないように細心の注意を払った。

4. 望ましい学校・保護者との連携の在り方について

(1) 学校との連携

学校との連携を図るために以下のようなことを行った。

① 入会時の連絡

入会に当たっては事前に保護者がフリースクールに通うことを学校に伝える

ことで、学校と保護者、フリースクールの信頼関係を損なわないよう配慮した。

入会後はフリースクールに通うことを管理職に連絡し、日常生活の中で学校に伝えるべきことがある場合は電話やメールをもって連絡をすること、出席の扱いのお願い、必要に応じて通学定期（実習用定期）発行証明のお願いをした。

また、入会時に学校へ出向き校長先生と保護者、ペガサス職員とで打ち合わせを行った学校もあった。このような機会は初めてであるが、在籍校の校長先生と保護者、ペガサス職員の意思疎通を図る上で大変有用な機会であると感じた。

② 月末学習報告

教室に通ってきた児童生徒の月日、入室時間、退室時間、学習活動の内容、備考欄にカウンセラーが気づいたことなどを、記録し、毎月末の出席統計に間に合うように在籍校にメールにより報告を行った。メールを送りにあたっては添付する活動報告書にパスワードをかけセキュリティに配慮した。

月・日	曜日	入室時間	退室時間	活動内容	備考	
1	9月1日	木	9:45	11:00	英語「I'd like～」の次のリスニング問題を解く。再読「動物の成長」動物の成長に関する単語を覚える。算数「分数」小数と分数が同じ数の大きさを比べる。社会「環境問題とわたしたちの暮らし」に関する問題文問題を解く。読解「質問紙が教えてくれること」読解練習問題を解く。	
2	9月2日	金	9:45	11:00	英語「How much ～? How many ～?」の並び替え問題やリスニング問題を解く。算数「分数と小数」分数と小数、整数の関係をからみかたを覚える。社会「環境問題とわたしたちの暮らし」に関する問題文問題を解く。読解「環境問題とわたしたちの暮らし」に関する問題文問題を解く。読解「質問紙が教えてくれること」読解練習問題を解く。	校長先生が御覧になる
3	9月6日	水	9:45	11:10	英語「クラブを次で読んでみよう」新出単語の練習をする。算数「分数」分数の計算の応用問題を解く。社会「環境問題とわたしたちの暮らし」に関する問題文問題を解く。読解「環境問題とわたしたちの暮らし」に関する問題文問題を解く。読解「質問紙が教えてくれること」読解練習問題を解く。	
4	9月11日	水	9:45	11:20	英語「環境問題とわたしたちの暮らし」に関する問題文問題を解く。算数「分数」分数の計算の応用問題を解く。社会「環境問題とわたしたちの暮らし」に関する問題文問題を解く。読解「環境問題とわたしたちの暮らし」に関する問題文問題を解く。読解「質問紙が教えてくれること」読解練習問題を解く。	

ペガサス活動報告書

③ 定期テスト等の実施

フリースクールに通っている子どもが適正に学習評価を受けられるよう、生徒が希望をした場合は、学校で行っている定期テストをフリースクールで受けられるよう学校へお願いをした。特に高等学校を目指す子どもにとって評価判定は欠かせないものであるので、中間テストや期末テスト、学力テストなどを学校の別室で受けられる場合はよいが、学校へ入ることすらできない子どもにとってはフリースクールで定期テスト等を受けられることは学習負担を軽減できる一つの方法である。今年はテストをペガサスでうけることを希望した子どもの在籍校すべてで協力いただけた。

さらに、小学生の学力テストをペガサスで受けたいとの要望があり、当該校の校長先生と話し合った結果可能になった学校もあった。

④ 学校との直接的な連絡

学校との連絡は基本的にはメールでのやり取りであるが、子どもの様子を直接参観に来てくださった校長先生もいらっしゃった。

また、6年生の中にはどうしても学校へ行けないということで、卒業証書をペガサスで校長先生から授与していただいた子どももいた。

⑤ 望ましい学校との連携について

1年間行ってきた「日常の活動についての詳細な報告」「定期テストなどのフリースクールでの実施」などを通じて学校との連携を図っていくことは、フリースクールと学校との望ましい連携につながるものである。また、フリースクールに通い始める際に校長先生と担任の先生、保護者とフリースクール関係者が一つのテーブルで話し合えた事例があったが、これによってフリースクールへの理解も深めていただけ、子どもの担任の先生と話をすることで、よりつながりを深めることができたので、望ましい連携を進めていくうえで、このような機会を設けることも必要であると感じた。

(2) 保護者との連携

① 入会前の見学

入会にあたって学習支援者と相談支援者が同席し、不登校に至った経緯や通院歴、相談歴などを記入できる範囲で見学記録用紙に記入してもらい、現在の状況などを聞きとり、保護者や当該児童生徒の様子を観察し、入会した場合の対応方針などを確認した。また、希望する場合は体験入会を行った。

② 日常の子どもたちの観察

仕事をしている保護者も多いので、教室に来たことや教室から帰ったことをメールで知らせることで、通えているかどうかの不安がないようにした。

また、日常の子どもの様子を観察し、気になることがある場合は声をかけたり、保護者と連絡を取ったりした。

学習のようすについてもメールを使って連絡をするように心がけた。特に作品作りなどの日常の学習活動とは違う活動を行った際は写真を添付するなどして子どものようすがわかるように心がけた。

③ 面談の実施

入会時に入会后1カ月を目安に希望制で面談を行った。また、中学3年生については進路相談面接を別に設け希望者に対して行った。

学習面以外での子どもの日頃の様子で心配がある場合には、土曜日、日曜日を含め保護者が面談しやすい時間に相談支援者と面談を行った。

④ 望ましい保護者との連携について

日常の子どもたちの様子を知ることは勿論であるが、保護者が子どもと接する中で不安に感じていることや将来への進路などに対して学習面と心理面ともに、いつでも相談できるような環境を整えることが保護者との信頼関係を築き、望ましい連携につながるものと感じた。